

なぜ、最も優秀で熱心な  
人ほど「自滅」するのか

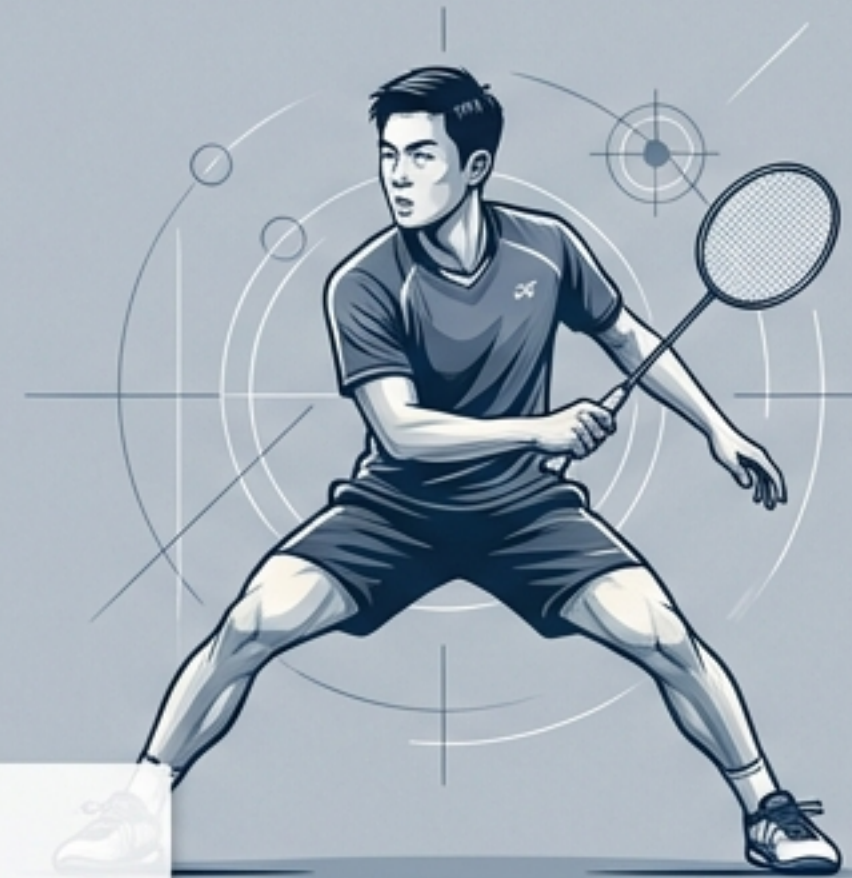


# バレーボール経験者は、バドミントンでとにかく「決めたがる」

The Decider by editorial

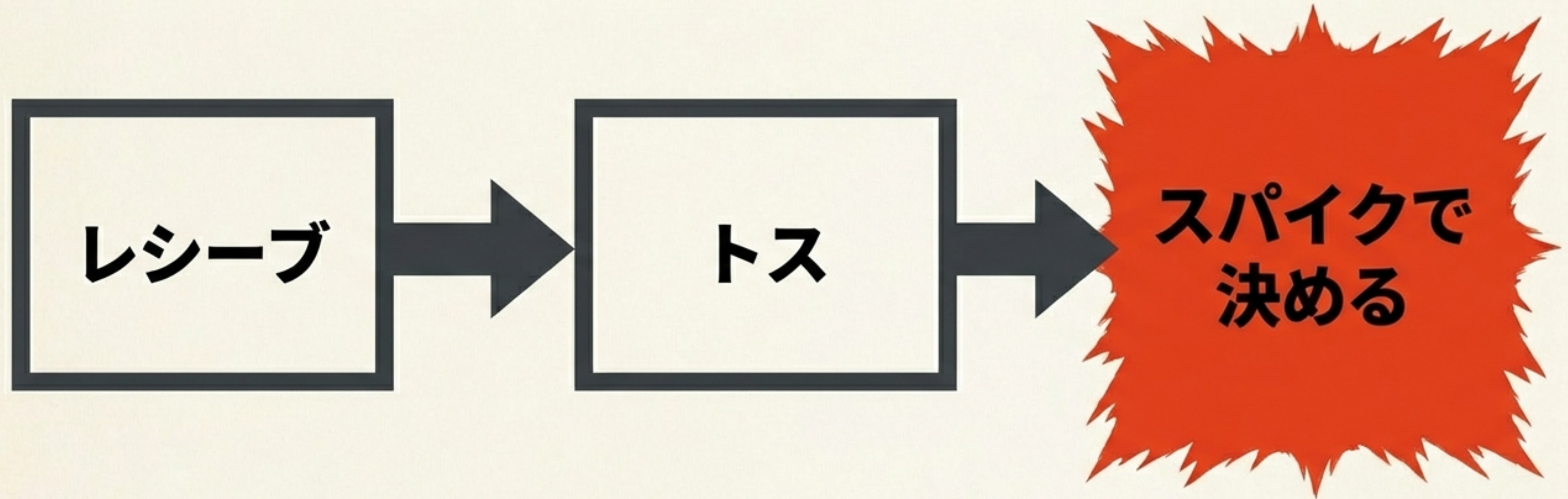


Editorial The System



- チャンスボールが来る。体勢が整う。
- 反射的に「叩き込んで終わらせよう」とする。

# 競技の構造が、無意識の思考を作っている



- バレーボールの至高の価値 = 「最後は強打で終わらせる」
- 脳に深く刻まれた意思決定：「チャンス = 叩き込め」

焦って決めようとするほど、自分から失点する

ラインぎりぎりを  
狙いすぎる

無理な強打を増やす

**強打** = **成功率  
の低下**

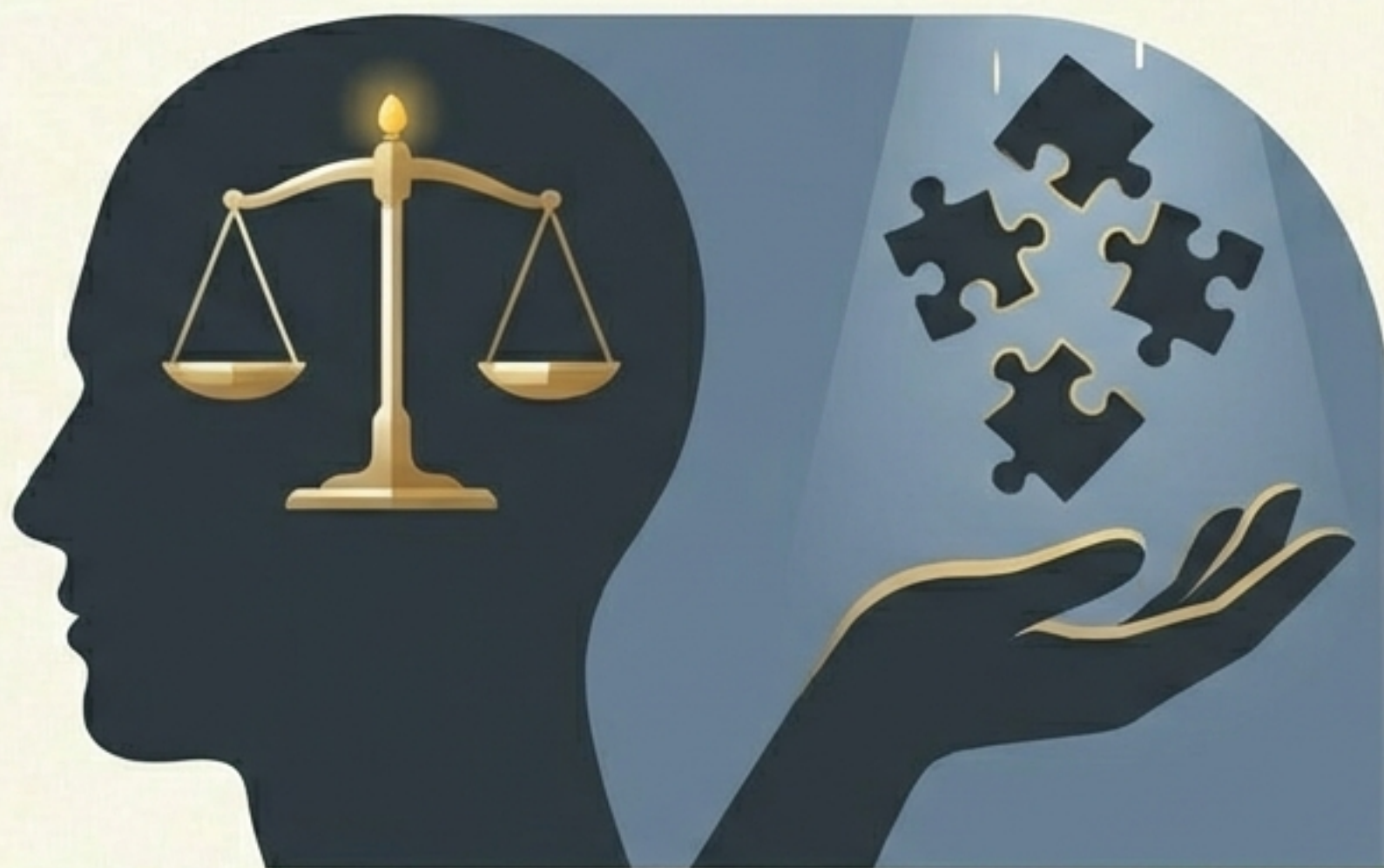
ラリーを無理やり短くしようとする

**結果：自滅によるミスの激増**

バドミントンの本質は「決める」ことではない。「ミスを奪う」ことだ



The Decider



The Mistake-Taker

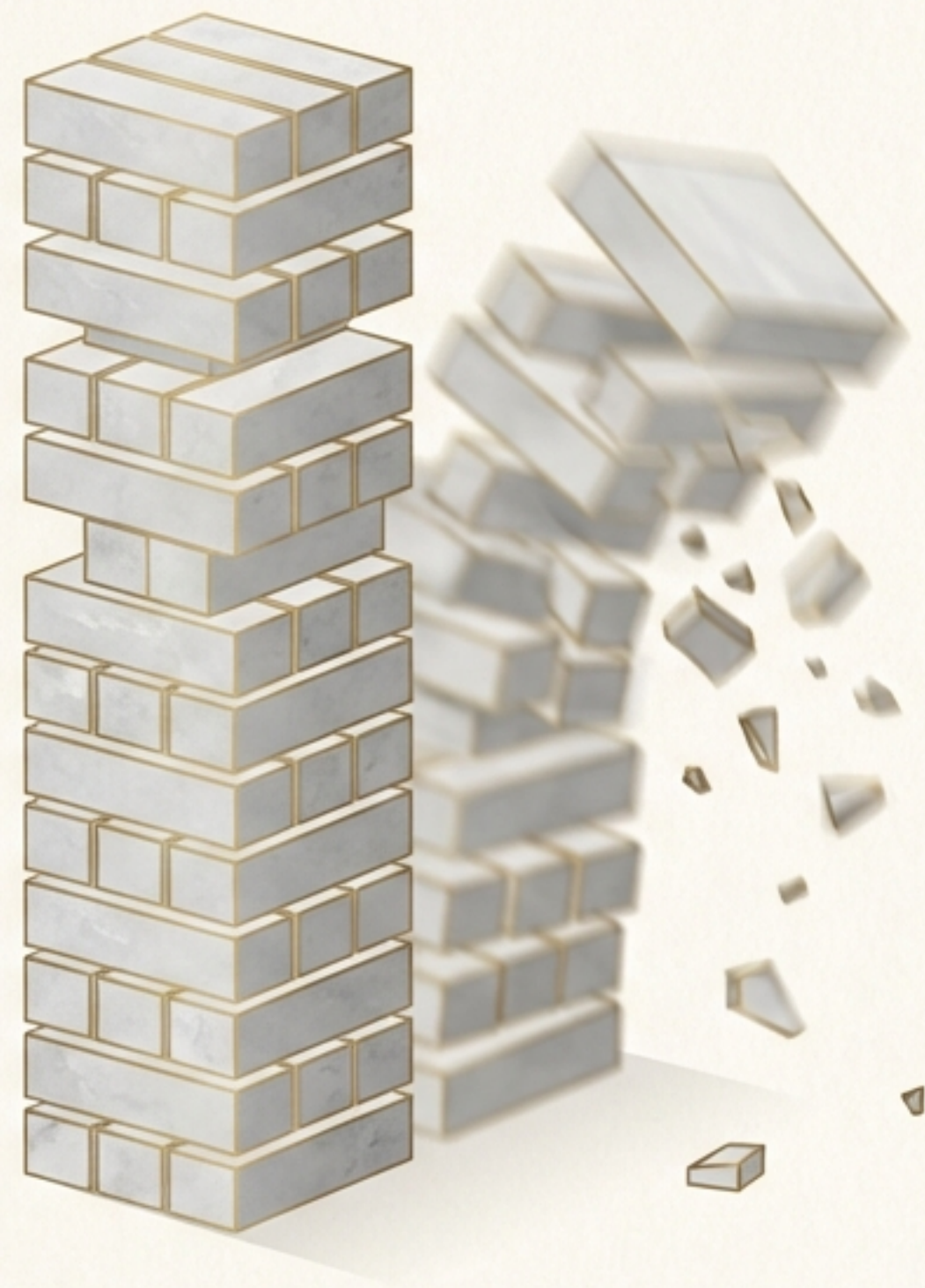
- トップ選手の試合でも、スマッシュの直接得点は少ない。
- 多くのラリーは「相手のミス」で終わる。

# 本当に強いプレイヤーは、驚くほど「決め」に行かない

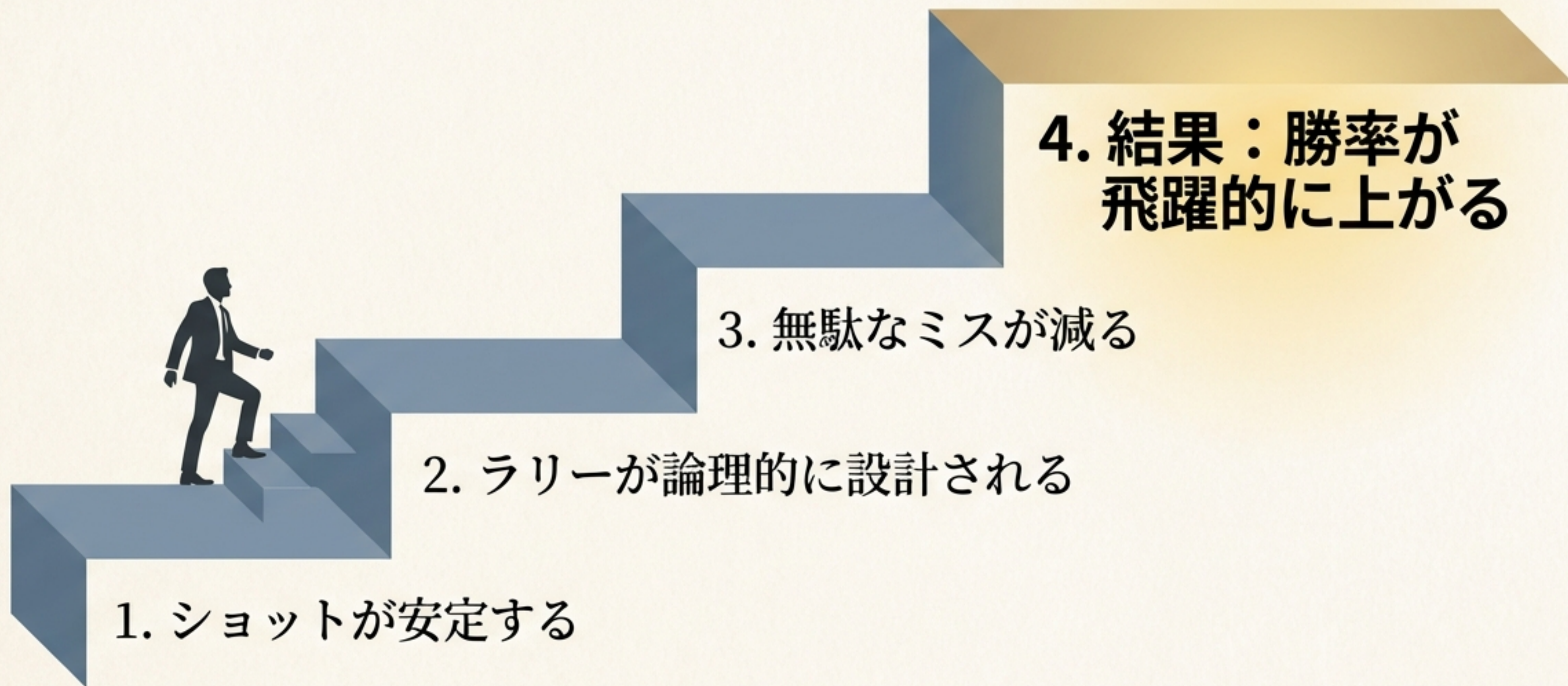


勝利とは、華麗に決めることではない。

「崩れる順番を  
遅らせること」だ



# 「あ、無理に決めなくていいんだ」





**「決めたがる人ほど、勝てない」  
これは人生とビジネスの構造である**

# ビジネスにおける「一撃必殺（ホームラン）」の罠

- 手っ取り早く結果を求める
- 最短距離を走り、リスクを抱え込む
- 華々しい一撃で全てを解決しようと焦る

Noto Sans JP ホームラン (ヲッハ)

結果：自らリスクを抱え込み、自滅していく



# 真のプロフェッショナルは、極めて理知的な「システム」を構築する



# 「決める」プレッシャーから、自分を解放せよ

仕事のどこで、無理なスマッシュを打とうとしていますか？

仕事のどこで、無理なスマッシュを打とうとしていますか？

今日から、華麗な一撃を捨てる勇気を持とう。

無駄な力みを消し、あなたの「ラリーを設計」しよう。